



Title	土族語(モンゴル語)の類義語sge-, uje-, nau-について
Author(s)	角道, 正佳
Citation	大阪外国語大学論集. 1991, 5, p. 25-48
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/79530
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

土族語 (モンゴル語) の類義語

sge-, *uje-*, *nau-* について

角 道 正 佳

On the Synonym of *sge-*, *uje-*, and *nau-* in the Monguor Language

KAKUDO Masayoshi

0. はじめに

どの言語にも類義語が存在するが、土族語の場合は、チベット語からの借用が豊富なため、モンゴル系語彙とチベット系語彙の間に次のような類義語が存在することがある。土族語の形式は Schröder (1959, 1970) から最も標準的だと思われるものと『土漠詞典』の表記または『土漠対象語彙』の表記 (括弧に入れてある語) を記す。⁽¹⁾

モンゴル語系語彙				チベット語からの借用語		
	『土漠詞典』モンゴル文語			『土漠詞典』チベット文語		
枝	sala	sala	salayā	aralaḡ	raalgha	ral ga
顔	niur	niur	niyūr	ndoḡe(顔色)	ndog	mdog
鳥	šo	xau	sibaṯū	fsüa		bya
ヒーマリ	kimori		kei mori	loṅšda		rlung rta
仏	purgan	(purghaan)	burqan	saṅrēdzi	sangrji	sangs rgyas
王	xān	haan	qayān	rēdziawu	rjawu	rgyal po
星	fōdē	foodi	*podun	sgarma		skar ma
家	ger	ger	ger	gür(テント)		gur
国	lusē	lus	ulus	yür(地方)		yul
大きい	šge	shge	yeke	tsien		chen
夜	soni	soni	sōni	muonuo(今夜)	moonoo	nub mo
ナイフ	tsidoguo	qidoghu	kituṯa	wadam(両刃の)		ba dan
魂	suniedzē	suneesi	sūnesü	namsümē		rnam shes
座る	sō-	sau-	sayū-	yigla-(「敬語」)		bzugs pa
狼		qunaa	čīnua	kadan	kadan	kha dam

漢語系語彙との間に類義語が存在する場合もある。例えば

漢 語 系 語 彙

『土漢詞典』

『土漢詞典』

青い kuḡuo kugo šaŋlan shang¹lan²(叢藍)

起源を問わず以下のような類義語がある。

		『土漢詞典』	モンゴル文語	チベット文語	漢 語
取る	awu-	awu-	ab-		
	wari-	w/bari-	bari-		
行く	yō-	yau-	yabu-		
	sdzi-	xji-	oči-		
言う	gulie-	gule-	üğüle-		
	kilie-	kile-	kele-		
見る	sgē-	sgē-	siqaya-		
	udzie-	uje-	üje-		
	nō-	nau-	ono-		
作る	šdza-	sza-	ḡasa-		
	xuarla-				
建てる	puosḡuo-	posilgha-	bosqa-		
	paḡ-				
	šdzēḡla-				
つなぐ	tōla-	taula-			tao⁴(套)
	kual-	koli-	küli-		
熟す	bal-	ba/oli-	bol-		
	tsiade-				
焼く	sira-	xiraa-	sira-		
	kaḡla-				
擦る	funḡu-	funḡu-	ünggü-		
	sā-				ca¹(擦)
供える	šdodla-			sdod la	
	šenlie-	(xinle-)			xian⁴(献)
食べ物	idieḡu		ide-		
	(i)diešē	idexi	idesi		
時	sagu	sagu			
	sār	sar		char	

尿	siedzë	xeesi	sigesü	
	sdzigal	xjaghar		
毛皮	nguasë	nghuasi	ungrasu	
	šarǵë			
たくさん	uluon	ulon	olan	
	yaxange	yaahange	aqui nige	
種類	sämba	samba		cham pa
	tsiadba			kyad bar
清い	arin	arin	ariyun	
	sirën	xurin		
チベット	tiwuo	tiwar	tübed	
	ǵuäsang	ghuisang		dbus gtsang
穴	nukuo	nuko	nüke	
	dzëng			
孔雀	dzindzi	jinji		jin ³ ji ¹ (錦鶏)
	mawya			rma bya
家	ger	ger	ger	
	kudë	kudu		
木	mödë	moodu	modun	
	sdziodzë	xjoosi	華夷訳語 希捨孫	

これらのうちの「取る」、「行く」、「言う」はモンゴル文語にも見られる類義語で馴染みのある語であるが、「見る」を表す3語のうち2語(nau-, sge-)はモンゴル文語にも対応する語があるにもかかわらず、「見る」という意味ではあまり使用されない。モンゴル文語では、ije- に対して qara- という類義語のほうが問題になる。しかし土族語ではこれら3語はごく普通に見られるものであり使用頻度もかなり高い。ただし nau- は Тодаева のテキストには現れない。

類義語の意味の違いを調べるには、ある程度豊富な資料を必要とする。上述の語彙のうちで例文が多く得られるのは「取る」、「行く」、「言う」、「見る」であるが、前者3つはモンゴル文語の用法ときほど大きな違いはないように思われる⁽²⁾のに対し、「見る」はモンゴル文語の用法とは大きくかけ離れている。

土族語はネイティブ・スピーカーによる文法性チェックが今のところできないので、テキストから収集した例文を分析することによって用法の違いを明かにしてみようと思う。

1. 辞書の記述

辞書の記述として、まず *Narin ghul*（地名の表記は『土漠詞典』に基づく）方言を記述している *Dictionnaire Monguor-Français* (DMF と略記する) を見てみよう。DMF の表記は一部簡略表記に改める。また、例文についている訳はフランス語訳を参考にしながら、土族語から直接和訳したものを記す。

<i>sgē-</i>	“voir”	
	<i>tši mōre yāma sgewu</i>	おまえは道で何を見たか。
	<i>kun sgegulā dūda</i>	人を見たら呼びなさい。
<i>nū</i>	“regarder”	
	<i>niürdu nū-</i>	まっすぐ見る
	<i>tši nū</i>	ご覧。
	<i>ndurdu nū</i>	上を見ろ。
	<i>tši udiändza nū, yāada yāma</i>	入口を見ろ外に何が。
	<i>tši xuēno nū</i>	後ろを見ろ。
	<i>tši nūra šdzi</i>	見に行け。
<i>udziä-</i>	“voir, regarder, prendre en consiération, examiner, lire, essayer, éprouver, souffrir, bien traiter”	
	<i>udziägundu sēna</i>	見るとよい。
	<i>bu udziägu tši udziä</i>	私が見るとき、おまえは見ろ。
	<i>kuni sgir udziädzi ġarġa adam</i>	人の心を見ることはできない。
	<i>šii udziä-</i>	芝居を見る

訳語に当てられている語彙だけを比べると、*udziä-* が他の 2 語の意味も取り込んで最も広範な意味を持っていることになり、*sgē-* と *nū-* とは意味がくい違っている。例文から判断すると、*nū-* は命令形として用いられることが多いようである。フランス語の *voir* には「見える、会う」という意味があるが、後述するように *sgē-* はこの意味で用いられるのに対し、*udziä-* は用いられない。

次に主として *Halqi ghul* 方言を記述している *Тодаева* の語彙リストの記述を見てみよう。

<i>cre-</i>	видеть, смотреть, встретить
<i>удже-</i>	видеть, смотреть

今度は反対に *cre-* のほうが *удже-* の意味をも取り込んで広範な意味を持っている。なお *Тодаева* の資料には *nō-* は現れない。ロシア語の *смотреть* には「面倒をみる」という意味があるが、この意味は後述するように *cre-* の用法である。*смотреть* には「鑑賞する」という意味もあるが、この意味になるのは *удже-* だけである。

次に東溝方言を記述している『土漢対象語彙』と『土族語語彙』を見てみよう。

『土漢対象語彙』	『土族語語彙』
sge- 見、見面	sge- ①見 ②見面
nau- 看	nau- ①看 ②注視 ③够
uje- 看、瞧	udzae-①看、瞧 ②探望
	xarə- ①看 ②面朝

『土漢対象語彙』の記述では sge- と uje- は意味が違い、uje- と nau- とは意味が同じということになる。『土族語語彙』の記述では sge- と udzae- とは意味が違い、udzae- と nau- とは意味が重なり合いながらも違っている。

『土族語語彙』では sge- に対応するモンゴル文語形として šarayi- という語が挙げているが、これはDMFや Тодаева のように siqara- と対応させるべきでいる。siqara- は Mongolian English Dictionary の記述では to peer, look intently or searchingly; to peep through; to take aim となっており、-ju siqara- to gaze, spy; to peep in or through, -ju ūje- to look or peep through (a door, window, chink) という例が載っている。šarayi- は『蒙漢辞典』には(通過空隙) 炮眼 (pao⁴yan¹) とある。これは①砲眼 ②爆薬を詰める穴という意味であり、〈打〜〉という熟語も「爆薬を詰める穴を開ける」という意味であるから、「見る」こととは何の関係もない。

中国語の「看」には「世話をする」という意味もあるが、「世話をする」という意味を持ちうるのは後述するように、sge- のほうである。「看」には「試してみる」という意味もあるが、これは uje- の意味と矛盾しないが、nau- には用いられない。

『土族語語彙』の xarə- というのは、他の辞書には記載がなく、また Schröder のテキストにも現れない。モンゴル文語には確かに qara- という語があり、モンゴル語にもこれに対応する語が存在するが、土族語に本当に存在するのか疑問である。

東溝方言を記述している最も詳しい辞書には『土漢詞典』(MQMと略記する)がある。この辞書には例が豊富に載っている。『土漢詞典』には次のように記述されている。例文の訳は中国語訳を参考にしながら土族語から直接和訳したものを記す。

『土漢詞典』(MQM)

sge-	見、瞧見、看見	lii sunosigunu sunosiwa, lii sgegunu sgewa	聞こえないのを聞いて 見えないのを見た。
		nausan gulo sgen gua	よく見たけれども見えない。
nau-	① 瞧見、看	qi ndaa nau, bi qinu nauya	君は私を見ろ、私は君を見よう。
		qi nau, te ireji gui yuu!	見てください、彼が来ていませんか。

uje-	② 守	kudunu nauji sau	家を見ていてください。
	① 看、視、瞧		
		hulosa ujesa qijig tigii	遠くから見ると花のようだ。
	② 看望	nasba uje	病人を見舞う
	③ 治、治療	nar uje	病気を治す
	④ 試	bu juuriji ujeya	私は書いてみよう。
		yaujinge uje	行ってみなさい。
	⑤ 請、償	niurdu uje	顔を重んじる
	⑥ 守	ger uje	家を守る
	⑦ 觀察、判断		
		bu ujesa te sain kungewa	私が見たところ、彼はよい人だ。
⑧ 回憶			
		bu ujeya, ne banjan ghuraan sarasa muxigu dundogwa	
		私が見よう、これは大体	三ヶ月前のことだ。
		uje ada-	見られない
		nige nigenaa uje adana	お互いに見られない。
		ujeji ghargha-	見いだす
		do kuridulaa ujeji ghargha adaja	今まで見いだすことができなかった。
		ujegu log	見方
		ujeji nguroo-	見たことがある
		uje shda-	見ることができる

『土漢詞典』では *sgē*- と *nau*- が意味的に重複している。例文を見て *nau*- の例には命令形が2つも採用されているということが注目に価する。*uje*- の例にも命令形と思われるものがあるが、それ以外に仮定副動詞（-sa）が2例あるということが注目に価する。後述するように、*nau*- の命令形の例や、*uje*- の仮定形の例は非常に多い。逆に *sgē*- の命令形の例は1例もない。*sgē*- の記述の最後の例文 *nausan gulo sgen gua* 「よく見たけれども見えない」というのは *sgē*- と *nau*- との区別を示す好例といえる。以上のことから *nau*- は「よく見る」、*sgē*- は「見える」、*uje*- は最も広範に「見る」という意味を持っていると概略でいうことができる。

辞書によって訳語の重なりぐあいがすべて異なっていることが一見してわかる。すなわち、類義語の意味の違いは訳語からはわからない、というあたりまえのことが改めて認識される。⁽³⁾

2. 資料

土族語の例文は次のテキストのものである。

Schröder(1959,1970),Heissig(1980)

凡例

VM I	Schröder(1959)	通し番号
Xoni	羊	1-467
MI	マンガス	1-145
MII	マンガス	1-79
MIII	マンガス	1-83
MIV	マンガス	1-71
XM	黒馬	1-323
SI	賛美歌I	1-18
SII	賛美歌II	1-15
B	子牛	1-99
SN	鴨のつがい	1-81
G	チベット、中国、アムド	1-78
A	おうむ、孔雀、かつこう	1-78
F	農作業	1-57
Sch	火酒	1-28
W	織機	1-20
Br	Brotdämpfen	1-37
xue	格言と比喻	1-28
VMII	Schröder(1970)	
	神話	1-832
GR	Heissig(1980)	
	ゲセル大王	1-2450

「ゲセル大王」はドイツ語訳がある2450行までを対象とする。出典は凡例記号（ただしVM Iは省略する）と通し番号で表す。

Тодаева (1973)

TI 諺	TI 結婚	TI 1 狼と兎	TI 2 蛙	TI 3 賢い子供
TI 4 兎	TI 5 マンガス	TI 6 古代人	TI 7 妻	TI 8 ラレンボとメンチン
TI 9 白い皇帝と黒い皇帝	TI 10 黒い馬	TI 11 シャランゴル (民和方言)		
TI 4 タブー	TV 会話文 (互助方言、Fulaan nura 方言) ⁽⁴⁾ (民和方言)			

出典は凡例記号、ページ、行の組合せで表す。：の次がページ、, の次が行を表す。複数の行に渡る場合は初めの行と終りの行をハイフンで結ぶ。

3. 自制性／非自制性

ある動詞の表す動作を動作主がコントロールできるか（自制性）できないかという観点から動詞を分類することができる。自制性を有する動詞は、命令形や継続相にできると概略いうことができる。あるいは逆に命令形や継続相になっている動詞の形態は自制性を有するということができる。また、そういった形式とは別に意味的な観点からある文における動詞が自制性を有するかどうかを考察することができる。一つの文に類似した意味を持っている動詞が2つ現れる場合、2つの動詞の意味に違いがあると考えるのが自然であろう。次の文には「見る」という意味を持っている *uje-* と *sge-* という2つの動詞が現れる。⁽⁵⁾

- (1) *Deeren rogdu ujesa, ghuraan xjoosi ni sgenii.* (Xoni 291-3)

四 方 を 見ると 三本の 木 が 見える。

- (2) — *Ne ken qagraana!* — *gee deeren rogduge ujesan ba [ha], yamada sgeji gui*
「これは 誰が 叫んだのか」と 四 方 を 見ると 何 も 見え ない。
iiguna. (TIII2:214,13-14)

- (3) *Snagshder tenu dire ujesa, juunu ujuur madunge sgenii.* (VMII 592)

宝瓶の 上 を 見ると 針の 先の ように 見える。

これらの例から *uje-* のほうが自制的、*sge-* のほうが非自制的に用いられていると考えることができる。次の例には *nau-* と *sge-* が一つの文に出現する。(4) はガルダ（迦櫻羅、金翅鳥）を捕えるのにまず蛇を捕まえ、ガルダを脅かして捕まえるという状況での表現である。(5)、(6) は「ゲセル大王」に見られる表現である。(7) はすでに述べた MQM にある例文である。

- (4) *Qong[qen] tenu nausa, moghui tenu sgesa, moghui tenu xiigim ba.*

ガルダが 見たとき 蛇が 見えると、蛇が うなる。

(Xoni 412-414)

- (5) *Undurdu nausa xirange sgenii.* (GR 1151)

高いところを 見ると 黄色いものが 見える。

- (6) *Bughundu nausa kugonge sgenii.* (GR 1153)

低いところを 見ると 青いものが 見える。

- (7) *Nausan gulo sgen gua.* (MQM *sge-*)

よく見たのに 見えない。

これらの例から *nau-* が自制的、*sge-* が非自制的に用いられていると考えられる。調べた範囲

では一つの文に uje- と nau- が用いられている例は得られなかった。以上をまとめるとおおよそ sge- が「見える」、uje- と nau- が「よく見える」というような意味をもっているものと思われる。

それでは、「よく」という様態副詞と共起するのはどの動詞であろうか。当然 uje- 及び nau- のほうだと考えられるが、次のように diixi あるいは diixinge と共に用いられている例が2例ある。-nge はニュアンスの違う副詞を形成する接辞であるから、diixi と diixinge は意味はほとんど同じである。⁽⁶⁾

- (8) [Gla]nu kol rjee diixi uje. (Xoni 252)

麝香鹿の 足 跡を よく 見ろ。

- (9) Sgerma duanzeg diixinge nausa (GR 1810)

スゲルマ・ドゥアンゼッグが よく 見ると

予想どおり、「よく見る」を表す uje-、nau- と共起している。もっとも「ちょっと」を表す nige と共起する次のような例もある。

- (10) Aaba aama ni nige ujesan ba [ha], arin szunge diuraa sauja.

父 母 が ちょっと 見ると、 きれいな 水が いっぱい 溜っていた。

(TIII6:243, 11-12)

さらに nigedu の例が (TIII2:219,24) にある。

- (11) Shdenlaqen sang waraa nige nauja. (GR 2304)

シュデンラチェン・サンは 持って ちょっと 見た

4. 「～してみる」

自制性が高いものとして「～してみる」という表現を次に取り上げてみることにする。この用法は uje- にしか用いられない。(12) は商人が捕まえた兎を籠に入れて運んでいるところの表現である。(13) は uqi-「飲む」に付いている例である。

- (12) Daaldimqinge kumurgonaa neeji ujeu sghaudu ni toolii diuliji gharaa ree,

商人が 箱 を 開けて みた とき 兎が 跳び 出て 来て

(qitaa) xji iiguna. (TIII1:209,29-30)

逃げて 行った。

- (13) Ne szu yamatiinge [ha], nige uqiji ujeja! — gee uqiji ujeji

この 水は どうか ちょっと 飲んで みよう 」 と 飲んで みると

iiguna [ha], tadun ghulo (hui) iiguna. (TIII6:243,14-16)

非常にうまい。

類似例 (TIII6:243,2), (TIII10:285,12)

5. 目的 (-la)

自制性を表しているものとして目的 (-la) の表現も無視できない。-la xji-/yau-/re- の用法のほとんどが *uje-* で *sge-* が 1 例だけある。DMF には *nau-* もある。

- (14) Aadee ujela xjija. (XM 13)

お爺さんが 見 に 行った。

- (15) Ghuraan hui ni ujela xjija. (SN 49)

3 回 見 に 行った。

- (16) Ta hana ncogla ujela re. (GR 1709)

おまえたち みんな 集まって 見 に 来い。

- (17) kudugu aaba aama ni ili ni xii ujela xjiguna. (TIII2:219,4-5)

家 の 父 母 みんな 芝居を 見 に 行った。

- (18) Dai haan te zaaliu bulainu kudunaa ujela xji iiguna. (TIII3:230,21)

皇帝はその 賢い 子供の 家へ 見 に 行った。

- (19) Ghuraanlaanaa guaiji ujela xjisan ba [ha], ghal ngulgeji, halong ghulo iiguna.

三人とも 走って 見 に 行くと 火が 燃え て 非常に熱かった。

(TIII6:243,11-12)

- (20) Beeri ni sunosdaa guiiji ujela xjisan ba [ha], aaba ni sgooji sauji iiguna.

妻 は 聞いて 走って 見 に 行ったら 父 が 罵っていた。

(TIII7:249,3-4)

次の (21) は *uje-* が「(意図的に) 会う」という意味で用いられている。「偶然に出くわす」場合は *sge-* のほうが用いられる。(22) は皇帝が子供の賢さを試すために、ラバを子供の家に残してきて、夜そのラバを家来に連れて帰らせ、翌日皇帝が子供の家へ行くと、子供はどうするだろうという場面で使われている。行き先がはっきりしているのに *xji-* でなく *yau-* が用いられている点も興味深い。

- (21) Ndaanu aaba da budangula qimu da tanu aabangulanu ujela rewa.

私の 父 と 私は あなた と あなたの お父さんたちに 会いに 来ました。

(TIII9:276,12-13)

- (22) Huiji dur ni haan — Njeen ujela yau daa, bulai yama giji ndaa

次の 日 皇帝は「自分が 見 に 行ったら 子供は どうやって 我々に
daabaulana. — geenu…(TIII3:230,30)

差し出すだろう。」と言って

ujela re- の例が他に2例ある。

- (23) Ta ghuilo ujela re. (TIII6:242,37)

二人とも 見 に 来て下さい。

- (24) — Aaba! yaandu tigiinge qigraanii? — giji iiguna ha, guaiwaa, ujela
「お父さん どうして そんなに 叫んでいるの。」 と 走って 見 に
reji iiguna. (TIII7:247,12-13)

来た。

MQMには「家を守る」という表現としては ger nau-, ger uje- しかないが、sge- の例も見られる。マンガスに出会ったお婆さんを助けるために、蛙が夜様子を見に来ようと言っている場面で次の表現が用いられている。この sge- は明かに自制的である。

- (25) Bu qimu moonoo ger sgela reya. (MI 31)

私はあなたのために 今夜 家を見 に 来ましょう。

DMFの前述の記述の中に nau- の例が見られる。Narin ghul 方言の -ra は正書法では -la に対応する。

- (26) Qi naula xji. (DMF)

おまえは 見 に 行け。

6. 命令 (ゼロ)

自制性を表す典型的な表現の一つに命令がある。命令形には nau- が圧倒的に多く、uje- もあるが、sge- は1例もない。nau- の自制性が最も強いことが窺われる。(27) は diixi 「よく」が共起している例、(28) は nige 「ちょっと」が共起している例であり、xorghul uje- 「占いをする」の目的語が省略されている文である。

- (27) [Gla]nu kol rjee diixi uje. (Xoni 252)

麝香鹿の 足 跡を よく 見ろ。

- (28) Qi nige uje. (GR 2011)

おまえは ちょっと (占いを) しろ。

- (29) Qi nau. (MIII 38)

見て下さい。

- (30) Hana nau. (xue 28)

みんな 見ろ。

- (31) Glangge [warlong warma shzi]resa doorojinge nau. (GR 971)

リンの 中の谷の 山頂から 下 を 見ろ。

類似例 (GR 966,971,977)

- (32) Qi lii xjureesa ndaa nudunlanaange nau. (GR 1530)

信用しないのなら私を 目 で 見ろ。

7. 意志 (-ya)

意志も意図性を表す表現の一つである。uje- の例が全くないのは偶然であろうか。sge- が「面倒をみる」、「様子を見る」の意味で用いられている場合は意志形もある。

- (33) Bu qinu morinu sgeya. (XM 6)

私が あなたの 馬(の面倒)を 見よう。

- (34) Malang bu sgeya. (XM 216)

明日 私が(様子)を 見よう。

- (35) — Qi yamada lii oolina. Malang bu sgeya. — giji iiguna.

「おまえは 何 も できない。明日 私が(様子)を見よう。」と言った。

(TIII10:285,26,35)、類似例(TIII10:285,34)

- (36) Qi xangzinaa nee, bu nauya. (MIII 34)

あなたは 箱 を 開けてください 私は 見ましょう。

8. 「会う」

次の例は「会う」という動詞が自制的か非自制的かで使い分けられていることをよく表している。「(意図的に) 会う」場合は uje-、「(偶然に) 出くわす、見かける」場合は sge- が用いられている。

- (37) Ndaanu aaba da budangula qimu da tanu aabangulanu ujela rewa.

私の 父 と 私は あなた と あなたの お父さんたちに 会いに 来ました。

(TIII9:276,12-13)

- (38) Qi tanu sgegulaa dauda re. (TV会話 7)

おまえは 彼に 出会ったら 呼んで 来い。

- (39) Tengula turong tenu sgewa. (TV会話 80)

彼らは 最初 彼に 出会った。

- (40) Qi munu mulaa fujunnu sgeji gui guu?(TV会話 11)

私の 幼い 娘 を 見かけなかった か。

- (41) Nige dur daaldimqingge sgeji iiguna. (TIII1:209,23)

ある 日 商人に 出会った。

「(偶然に)出くわす」場合は *pungi-* という動詞も用いられる。(42) は Schröder から、(43) は Тодаева からの例である。

(42) *Shbaawag aajanu pungisan ba.* (MI 21)

蛙 さんに 出会った。

(43) *Nige durgedu aane xjunnaa kurgeji ghulge dawaanu, giderge hariji ren*
ある 日 お婆さんが 娘 を 送って 谷を 渡って もどって 来て
iisa, Mangghusi aanenge pungaa xji iiguna. (TIII:236,2-4)

いると マンガス 婆さんに 出会って しまった。

9. 継続性

動作が継続性を持っているかどうかは継続相を表す形式が使用できるかどうかを見ればよい。継続性を表す形式としては *-ji sau-* がある⁽⁷⁾。この形式のほとんどが *sge-* である。「黒馬」の中で3人の妻たちがマンガスに血を吸い取られて日に日に痩せ衰えていくのを見て、夫たちが見張る場面で次のように何度も継続相を表す表現が使われている。

(44) *Huiji dur tash aaja sgeji sauja.* (XM 103)

次の 日 石 兄が 見ていた。

他に類似例が (XM 179,180,200,217,218)

以上の例はすべて「黒馬」からのものであるため、データに偏りがあるが、いずれも「見張る」という意味で *sge-* が用いられている。

(45) *Dai sgeji saudelaa, agha diu ghuido reji iiguna.* (TIII10:286,12)

見て いると 兄 弟 が 帰って来た。

少し違った表現であるが、「ゲセル大王」にはリンの統治者を求めてやって来た老いた皇帝に対してシリカンゲーが言う次のような例がある。

(46) *Qi nige rogsa ni nauji sau.* (GR 1486)

あなたは 1つの 方向を 見 て 留まってください。

この文における *sau-* はアスペクトを表しているというよりは「留まる」という具体的な意味を表しているので、*nau-* の継続性の証明にはならない。

-ji iiguna という表現も形式的には継続相を表しているように見える。この表現は Тодаева の資料にはきわめて多く現れるものであるが、文脈から判断して *-ji sau-* とは違って「～ている」とは訳しにくいものが多いため継続性を表している積極的な証拠にはなりえない。*sge-* の例は全くなく、*uje-* ばかり現れる。(52) の例は動詞語幹に *iiguna* が付いたものであるが、Тодаева のテキストに *iiguna* で終るものが多いことをよく表している例である。なお、Schröder のテキストには *-ji iiguna* の形式は少なく、*-san ba* の形式のものが非常に多い。

- (47) Te zoohundunaa ujeji iiguna. (TIII2:221,6-7)

彼は 竈(カマド)を 見た。

- (48) Aaba ni ghajarnu furi qireerenunge ujeji iiguna [ha]. (TIII2:214,27)

父 は 地 の 下 の 端 を 見た。

- (49) …xii ujejin kun sain jalau sain moringe tixi furi daghaan daghaan
芝居を 見ている 人は 美しい 青年が 美しい 馬を 上 下に 従えているのを
ujeji iiguna. (TIII2:219,31-33)

見た。

他に (TIII2:220,29)

- (50) Ula tolghuidu sauwaa, deeren rognu ujeji iiguna. (TIII8:259,24-25)

山の 頂上 に 座って 四 方 を 見た。

- (51) Yeeri taada kuraanu haranghu nukonge ujeji iiguna. (TIII10:286,11)

妻は 近くへ やって来て 暗い 穴を 見た。

- (52) …—giji njeen huxinaa ujelgha iiguna. (TIII4:234,11)

…」と 自分の 口 を 見せた。

継続性を有する動詞はその動作が長い間続いているわけであるが、継続相の形式である必要はない。後述する(73)の例では非分離副動詞(-n)が用いられている。

10. 非自制性

知覚構文は非自制性を表するものであるが、*uje*-, *sgē*-の両方が用いられる。*nau*-が用いられた例は全くない。⁽⁸⁾

- (53) …xii ujejin kun sain jalau sain moringe tixi furi daghaan daghaan
芝居を 見ている 人は 美しい 青年が 美しい 馬を 上 下に 従えているのを
ujeji iiguna. (TIII2:219,31-33)

見た。

- (54) Xaunu nesijinge lii sgenii. (GR 219)

鳥が 飛ぶのも 見えない。

- (55) Munu raawanu ujiuur ni gergeljajinnu sgejii. (GR 1289)

私の 頭髪 の 先 が 輝いているのが 見えた。

11. 抽象的な目的語

見る対称となるものは具体的に視覚に訴えるものばかりではなく、「苦難」、「占い」、「不幸」

のような抽象的なものもある。こういった場合、目的語マーカーはゼロであるのが普通である。MQMの例などから判断して uje- の例が最も多い。次の3例のうち (56), (58) は非自制的であり、(57) だけが自制的である。

(56) Shdoogu kunnu ugonu qangla, nige nasidu jublong lii ujem. (xue 18)
年取った 人 の ことばを 聞きなさい。 一 生 苦難に あわない。

(57) Dungo maginda, Shdagrang sampal ghoordu xorghul ujeja. (GR 790)
ドゥンゴ・マギンダとシュダグラン・サムパルは 占いを した。
他に (GR 2012)

(58) Tigii [nuso]nu sgeji gua. (VMII 643)
そのような 不幸 は 見たことが ない。

12. 目的語をマークする格

「見る」対象は視覚に訴える具体的な物と、視覚に訴えない抽象的なものとがある。後者の場合、目的語は通常ゼロでマークされる。一方、前者のほうはさらに場所とそれ以外（人、動物、物、様子）に分けられる。場所を表す名詞は与位格または位格または -ji でマークされるのが普通であるのに対し、場所以外の名詞は対格でマークされるのが普通である。場所を表する後置詞（たとえば huino 「後ろ」）に後続する格はゼロのこともある。また対格はゼロのことも多い。場所を表す語の後に対格が付いている例が1例、物を表す語の後に与位格が付いている例が1例、位格が付いている例が2例得られた。この最後の例は物の部分を指しているから場所と解釈することも可能である。また位格+対格の例が1例見つかった。

場所を表す語に付く与位格と位格とはあまり区別がなさそうである。ただし、nau- が位格を要求している例は得られなかった。与位格と位格の用法の違いについては角道 (1989a) を参照のこと。

sge-

(59) Snogshder tolghuire sgenii? (VMII 609) (物の部分、場所) (位格)
宝瓶の 頭 が 見えるか。

(60) Doorogu kun undurdu sgeja. (xue 28) (与位格)
下 の 人が 高い所を 見た。
他に (VMII 115)

(61) Aasi dulaajin bulainge sgeja. (XM 242)
牛を 放牧している 子供が 見えた。 (ゼロ)
他に (TI 21), (TI 66)

- (62) Buruu ghajarnu sgeja. (B 58) (場所) (対格)
仔牛は地面を見た。

- (63) Kidi menhan jidaa uldinu sgeja. (GR 1254) (対格)
数千の槍(ヤリ)と剣が見えた。
他に (SN 30), (TV 会話 111)

uje-

- (64) Huino [jaw] re ujesan ba. (A 20) (位格)
後ろの山腹を見た。

- (65) Dunda salare ujesa, (VMII 140) (物の部分、場所) (位格)
中の枝を見ると

- (66) Aaba ni ghajarnu furi qireerenunge ujeji iiguna [ha]. (TIII2:214,27) (位格+対格)
父は地の下の端を見た。

- (67) Deeren rogdu ujesa, (Xoni 292) (与位格)
四方を見ると
他に (Xoni 250), (SII 1), (G 16), (TII:191,3-4)

- (68) Tasge huni giji ujewa. Budasge mauxidu ujewa. (TII:189,17-18) (与位格)
あなたがたは羊だと思った。私たちは猫に見えた。

- (69) Tela huino ujesan ba. (G 34) (ゼロ)
その後ろを見た。
他に (xue 18), (GR 790,2012)

- (70) Snogshdernu ujela xjisa, (VMII 565) (対格)
宝瓶を見に行くと
他に (TII:191,12), (TIII9:276,12-13)

nau-

- (71) Undur tingeredu nausan ba. (VMII 36) (与位格)
高い天を見た。
他に (VMII 39,42,58), (GR 966)

- (72) Doorodunge nau. (GR 966,971) (与位格)
下を見ろ。

- (73) Gaizi qijignu naun naun beeri ghuraan kudu ni xjija. (XM 168) (対格)
カラシ菜の花を見ながら妻三人は家へ帰った。

- (74) Shdenglaqan sang dorooji nauja. (GR 193) (-ji)
シュデンラチエン・サンが下を見た。

13. 使役

使役の例は少ないが sgelgha- の形式のものが2例ある。シュデンラチェン・サンを訪ねてきた老いた皇帝に対して、長男のニマ・ドゥァンジェウが父は座禅をしているから会わせられないというのを次のように言っている。sge- は通常「偶然に出くわす」という意味で用いられるのに対して、使役形のこの形式は明らかにニマ・ドゥァンジェウの意図が感じられるので、自制的に用いられている。

(75) Lii tanijin kundu sgelghan gui. (GR 1312)

知らない 人には 会わせ ません。

類似例 (GR 1321)

形式的には uje- に使役を表す -lgha- を付けて「見せる」という意味に用いられる ujelgha- がある。こういった表現は sge-, nau- には見られない。

(76) …— giji njeen huxinaa ujelgha iiguna. (TIII4:234,11)

…」と 自分の 口 を 見せた。

(77) Biudanguladu ujelgha daa. (TIII6:243,4)

我々 に 見せなさい。

14. uje-にしか用法がないもの

「みなす」という意味で用いられるのは uje- だけである。(78) は結婚の結納として新郎側が持ってきた羊を新婦側の女たちが冷やかして歌っている場面である。「鑑賞する」という意味で用いられるのも (79) のように uje- だけである。目的語のマーカ―はゼロである。「蛙」には「芝居を見る」という表現が何度も用いられている。判断をあらわすのも uje- だけである。(80) の例は蛙が人間の妻に芝居を見に連れて行ってもらおうとするところである。人に踏みつけられないように蛙は妻に懷に入れるように頼む。それに対する妻の返事である。(81) は愚かな男が賢い妻から、商売のやり方を聞いて売買が成立した後、買った人が言った表現である。

(78) Tasge huni giji ujewa. Budasge mauxidu ujewa. (TII:189,17-18)

あなたがたは羊だ と思った。 私たちは 猫 に見えた。

(79) Kudugu aaba aama ni ili ni xii ujela xjiguna. (TIII2:219,4-5)

家 の 父 母 みんな 芝居を見 に行った。

(80) Qimu ujesa shbaawg, kundu ii. (TIII2:219,15)

あなたを 見ると 蛙ですが 重いです。

(81) Awusan kun —Do ne anjiisa mudewa uu? Ujesa shge dendergiingewa. —

買った 人は 「 これは どうして わかったのか。 見ると 大 馬鹿なのに。 」

giji sgildunaange (maula)san ba. (TIII7:249,31-32)

と 心の中で 悪口を言った。

15. 疑問

sge-, *uje-*, *nau-* が疑問文の用法で違いがあるとは思えないが、資料から得られた例には明らかに偏りがある。まず、Yes-No Question は少ない（例文（59）を参照）。疑問詞を含む疑問文のうち、*yaan(nu)*, *yama* 「なにを」、*yamar dungogdu* 「どんな様子を」は *sge-* と *uje-* に現れ、*anjii* 「どこを」は *nau-* に現れる。

「何を／が」

(82) *Kunnu nudundu yaannu sgenii?* (VMII 571,657)

人 の 目 に 何 が 見えるか。

他に (VMII 589-590), (GR 1148,1149,1185), (TII:189,29), (DMF)

「どんな様子を」

(83) *Yaanu dundogdu sgesan ba?* (VMII 115)

どんな 様子 を 見たか。

他に (G 16)

「どこを」

(84) *Turong tenu anjii nausan ba?* (VMII 32)

はじめ どこを 見たか。

他に (VMII 33,34)

16. 否定

否定は *lii* を前置して *-m* または *-nii* で終るか、*-n*, *-ji* に *gui/a* を後置する方法で表現する。資料には *sge-*, *uje-* のみ例があって、*nau-* はない。*sii* を前置して *-wa* で終る例はなかったが、*bii* を前置する禁止の例は民和方言の中に1例得られた。

lii

(85) *Kunnu rge lii sgenii.* (GR 220)

人 家 が 見られない。

他に (VMII 562), (B 45), (GR 219,220,675,987,989,1028,1065)

(86) *Muxi lii ujem, huino ujem.* (G 15)

前を 見ない 後ろを 見る。

他に (G 35), (xue 18)

gua/i

(87) *Hara kii tauwaanu, xiruu pudiraaja. Nudu sgeji gua.* (GR 1610-1611)

黒い 風が 吹き 土が まい上がった。目が 見え なかった。

他に (VMII 643), (T I 66), (TIII2:214,13-14), (GR 1838,1890,1996)

- (88) Jige mahan ideenu, jige niurnu ujen gua. (TI 69)

ロバは 肉を 食べ ロバは 顔 を 見 ない。

bii

- (89) Qi budaa ide, udenu bii uje. (TV会話148 民和方言)

おまえは ご飯を 食べろ 入口を 見るな。

17. その他の特徴

假定副動詞 (-sa) の形式は sge-, uje-, nau- のいずれにも付きうるが、Schröder のテキストで假定形は sge- が 1 例、uje- が 30 例、nau- が 3 例であり、Тодаева では sge- が 1 例、uje- が 11 例である。uje- に付くものが圧倒的に多いことがわかる。この形式は「～すると」、「～したとき」等と訳せるものであるが、自制性とも継続性とも関係がないので、なぜ uje- に集中しているのかよくわからない。

全体として限定用法の例は少なく、ujejin の形式が 1 例 (TIII2:219,31-33)、ujesan の形式が 1 例 (TII:187,16-17) あるにすぎない。この例だけでは有意な結論を引き出すことはできない。

文において sge-/uje-/nau- が要求する成分 (主語、目的語、状況語等) には明確な違いはなさそうである。

18. まとめ

以上述べてきたことをまとめて表にすると次のようになる。

意図性

知覚構文が最も意図性が低く目的、意志、命令は高い。

	知 覚 構 文	目的 (-la)	意志 (-ya)	命 令 (φ)
<i>sge-</i>	○	○	○	
<i>uje-</i>	○	○		○
<i>nau-</i>		○	○	○

目的語の抽象性

	抽 象 的	具 体 的 (場所、人、動物、物、様子)
<i>sge-</i>	○	○
<i>uje-</i>	○	○
<i>nau-</i>		○

場所を表す目的語の格

	与位格 -du	位 格 -re	-ji	対 格 -nu	位格+対格 -renu	ゼ ロ
<i>sge-</i>	○	○		○		
<i>uje-</i>	○	○			○	○
<i>nau-</i>	○		○			

継続性

	-ji sau-	-ji iiguna
<i>sge-</i>	○	
<i>uje-</i>		○
<i>nau-</i>	(○)	

否定、疑問

	否 定			疑 問		
	lii_m nii	n/ji gui/a	bii	なに yaan(nu) yama	どんな様子 yaannu dundogdu	ど こ anjii
<i>sge-</i>	○	○		○	○	
<i>uje-</i>	○	○	○	○	○	
<i>nau-</i>						○

非自制性と自制性に分けて意味を表示すると次のようになる。

	非 自 制 的	自 制 的
sge-	見える 偶然に出くわす、見かける	面倒を見る、様子を見る
uje-	見なす、思う (苦難に)あう*	意図的に会う ～てみる (占いを)する* 見舞う* 治療する* (顔を)重んじる* よく見る
nau-		よく見る
関係する 構 文	知覚構文	目的(-la) 継続(-ji sau-) 命令

*は慣用的な表現で「見る」という直接的な行為から少しずれているものである。MQMの niurdu uje-「顔を重んじる」(中国語訳は講面子)とDMFの niurdu nau-「まっすぐ見る」(フランス語訳は regarder en face)とを比べると uje- の抽象性のと nau- の具体性の違いがよくわかる。

註

- (1) Schröderのテキストには多くのバリエーションが現れるため、最も代表的な形式を記す。バリエーションについては角道(1990a)を参照されたい。
- (2) awu-/wari-については、慣用的な表現を除くと、生き物が目的語の場合は「捕える」の意味で awu- が用いられ、物が目的語の場合は「入手する」、「買う」、「もらう」等の意味で awu- が用いられ、「手に持つ」の意味で wari- が用いられる。「もって行く/来る」の場合は awu- が用いられることのほうが多い。
xji-/yau- については一般的な傾向として目的地が明確な場合は xji-、そうでない場合は yau- が用いられる。…ji xji- の形式で「～してしまう」という意味になる。
kile-/gule- については…giji kile-「…という」、kilesan ba「(次のように)言った」の場合は kile- が用いられ、内容があること「話す」場合は gule- が用いられる。ugo「ことば」は gule- と共起することのほうが多いようである。土族語には、モンゴル文語の yari- に対応する語は存在しない。
- (3) 次の tau- は漢語からの借用語であり、漢語の用法をそのまま受け継いでいるため「かぶせる」と「つな

ぐ」という全く異なる意味を持ち合わせている。*koli*- の用法と比べると以下のようになる。訳語だけに頼って意義の広がりを図示すると、日本語の場合と中国語の場合とで異なってくる。

<i>taula</i> -	套 (tao ⁴)	重ねる、かぶせる
		口なわでつなぐ
	<i>mori taula</i>	馬をつなぐ
	<i>deelnā taula</i>	服をかぶせる
<i>koli</i> -	套 (tao ⁴)	口なわでつなぐ
	駕 (jia ⁴)	(ウシやウマに)車をつなぐ、車や農具を引かせる
	<i>tirge koli</i>	馬をつなぐ
	<i>njasi koli</i>	鉄を引かせる

	かぶせる	つなぐ	引かせる	套	駕
<i>taula</i> -	_____			_____	
<i>koli</i> -		_____		_____	

- (4) 互助方言の下位方言のひとつである Fulaan nura 方言の例が 1 例ある。次のように正書法では *ujeenu* 「見て」となるべき語が *ujeed* となっている。

Te uđenu neenge nige ujeed gharaa xjiwa. (TV 会話 12)

あの戸を開けて ちょっと 見て 出 て 行った。

- (5) 例文をテキストの通りに引用すると補助記号等が繁雑すぎるので、方言間の微妙な差異が失われるけれども『土漢詞典』に基づいて正書法に統一する。固有名詞以外でこの辞書にない語は正書法の表記に最も近いと思われる形を [] に入れて記す。方言間の違いで最も大きいのは次のような母音の表記である。

	東溝方言 『土漢詞典』	Halqi ghul方言 Тодаева	VM I, II	Narin ghul方言 DMF
a 類	uu	ȳ	o, ȳ, iu, u, (uo)	ū
b 類	au	ȳ	o, ȳ (uo)	ū
c 類	oo	ō	o, ȳ, uo	ō, uo
d 類	ee	ē, ie, iē	e, ē, ē	ē, ie, iē
e 類	ai	ē	e, ē, ē, ä	ē

形態素の違いには次のようなものがある。

	『土漢詞典』	『簡誌』	Halqi ghul方言	VM I, II	Narin ghul方言
位格	-re		-pa	-rē	-re
形動詞過去	-san	-san	-cah	-dzan	-dzan
仮定副動詞	-sa	-sa	-ca	-dza	-dza
造 格	-la	-la	-la	-la	-ra
三人称命令		-lagə	-(лах)re	-lagē	-ragi
属格／対格+ni	-nii ni	-nii nə	-neni	-nini	-nini

『土族語簡誌』(pp. 35-36) には、陳述式現在時附加成分（終止形現在）(-nə) として次の左側の例文が載っている。これを正書法に直すと、右側のようになる。この形式には判断語気助詞は付かない。

『土族語簡誌』

bu mude-nə.

私は知っている。

tcə tenə tanə-(ə) uu?

あなたは彼を知っていますか。

正書法

Bu mudeni.

Qi tenu tanini uu?

一方、p.41には副動詞反復体（非分離副動詞）(-n)として次の左側の例文が載っている。これを正書法に直すと右側のようにになる。最初の文は判断語気助詞主観範疇、2つめと3つめの文は判断語気助詞客観範疇が付いている。

『土族語簡誌』

tcəanə bu otc-n ii, ta da otc-n a.

お茶を私は飲む。あなたも飲む。

gada xuraa oro-n a.

外で雨が降っている。

正書法

Qaanu bu uqinii, tada uqina.

Ghada huraa urona.

ところで、de Smedt et Mostaert, Тодаева, Schröderでは動詞に付く判断語気助詞主観は短母音で現れるため、陳述式現在時附加成分との区別ができない。こういう場合すべて、判断語気助詞主観範疇の-iのほうで綴ることにする。

同様のことが併合体副動詞（結合副動詞）の場合にも問題になるが、こちらのほうは区別ができる。

『土族語簡誌』(p.41)には次のような例が載っている。

『土族語簡誌』

bu mude-dz(ə) ii.

私はわかった。

ken kəle-dz(ə) a?

誰が言ったか。

さらにp.38には、次の例が載っている。

『土族語簡誌』

併合体副動詞 -dzə

tcə oro-də re.

おまえは入って来い

bulaisge paalalde-dzə naaden a.

子供は 追いつながら遊ぶ

正書法

Bu mudeji ii.

Ken kileja?

正書法

Qi uroji re

Bulaisge paalalduji naadina.

Schröderには-dzeとdzi-iの区別があり、正書法の-ji及び-ji iiにそれぞれ対応する。Тодаеваにもこの区別がある。

(6) -ngeが付いた形容詞や副詞は「很～」、「～点儿」、「～些」等と訳されている。-ngeについては李克郁(1983)、角道(1989b)を参照されたい。

(7) 継続性を有する動詞の中にはxinaali-「悲しむ」のような非自制的なものも含まれる。

(8) 「聞く」を表す語にはsunosi-, sunosda-, qangla-がある。sge-「見る」に対応するのはsunosi-あるいはsunosda-であることが次の例からわかる。

Qi bazardu yaan sunosiwa, yaan sgewa nige kile. (TV会話 58)

おまえは町で何を聞いたか 何を見たかちょっと言いなさい。

Lii sgesannu sgewa, lii sunosdasannu sunodawa. (MQM sunosda-)

見えないのを見た、聞こえないのを聞いた。

知覚構文にはsunosda-が用いられている。

Aabanu qigraagunu sunosdasan ba. (TIII2:214,13)

父が叫んでいるのが聞こえた。

命令文の例としては、

Aaba, aaba! Qi njeen ugo sunosi daa. (TIII3:230,36)

お父さん お父さん、私の いうことを 聞いてください。

注意して聞く場合は *qangla-* が用いられる。

Aka qidong smugeer qanglaja. (GR 703)

アカ・チドンは 密かに 聞いた。

したがって、おおまかに次のような関係になっているといえる。

		「聞く」
	小 ↑	<i>sunosda-</i>
自制性	↓	<i>sunosi-</i>
	大 ↓	<i>qangla-</i>

参考文献

- 哈斯巴特爾、他編（1985）『土族語詞彙』（*Monɣor kelen ü Uges*）内蒙古人民出版社
- 互助土族自治県民族語文辯（1982）『土漢対照詞彙』（*Monghol Qidar Harilqilegu Ugosge*）互助土族自治県民族語文辯公室翻印
- 李克郁（1983）「土族語中 -nge(-ge) 的用法」『青海民族学院学报』一九八三年第三期 54-61
- 李克郁編（1988）『土漢詞典』（*Mongghul Qidar Merlong*）青海人民出版社（MQM）
- 照那斯圖（1981）『土族語簡誌』民族出版社
- 角道正佳（1987）「土族語の下位方言」『大阪外国語大学學報』第75-1.2号 49-63
- 角道正佳（1988a）「*Geser rēdzia-uu* の言語 — 自由交替 —」『大阪外国語大学學報』第76-1.2号 25-50
- 角道正佳（1988b）「*Geser rēdzia-uu* の言語 — 分布 —」『大阪外国語大学學報』第77号 23-44
- 角道正佳（1989a）「モンゴル語（土族語）の位格と与位格の用法について」『日本モンゴル学会紀要』No.19, 30-39
- 角道正佳（1989b）「土族語（モンゴル語）における接尾辞 -ngge について」『大阪外国語大学論集』第1号 1-27
- 角道正佳（1990a）「土族語（モンゴル語）の一方方言の自由交替 — *Aus die Volksdichtung der Monguor* の言語 —」『大阪外国語大学論集』第3号 65-91
- 角道正佳（1990b）「土族語の正書法」『大阪外国語大学論集』第4号 49-76
- Čingeltei(1981) 'Mongɣor kele deki qoyar tusalaqu üyile üge yin tuqai,' *Öbür mongɣol un yeke surɣaruli yen mongɣol kele bičig sudulqu raɣar un kele bičig ün erdem sinjilgen ü ügüel ün tegübirü, dörbedüger debter*, 35-42.
- Heissig, Walther(1980) *Geser rēdzia-uu*, Dominik Schröders nachgelassene Monguor(Tujen)-Version des Geser Epos aus Amdo, Otto Harrassowitz, Wiesbaden. (GR)
- Róna-Tas, A. (1986) *Tubet-Mongolica, The Tibetan Loanwords of Monguor and the Development of the Archaic Tibetan Dialects*, Mouton & Co., The Hague.
- Schröder, Dominik (1959) *Aus die Volksdichtung der Monguor*, 1. Teil, Otto Harrassowitz, Wiesbaden. (VM I)
- Schröder, Dominik (1970) *Aus die Volksdichtung der Monguor*, 2. Teil, Otto Harrassowitz, Wiesbaden. (VM II)
- de Smedt, A. et A. Mostaert (1933) *Le dialecte Monguor parlé par les mongoles du Kansou occidental*, III^e partie, Dictionnaire Monguor-Françaises, Imprimerie de l'université Catholique, Pei-p'ing. (DMF)
- de Smedt, A et A. Mostaert (1964) *Le dialecte Monguor parlé par les mongoles du Kansou occidental*, II^e partie, Grammaire, Mouton & Co., The Hague.
- Тодаева Б. Х. (1973) Монгорский язык, издательство «наука» главная редакция восточной литературы, Москва.

(1991. 5. 14 受理)